



MURAKAZA NEZA MU RWANDA Vol.9

(Welcome to Rwanda)

JICA 海外協力隊（2022年度1次隊）
ルワンダ共和国 シンゴマ郡 ムラマセクター配属
コミュニティ開発 水の防衛隊
五十嵐貴昭

目次



※ 井戸修理を共に行った
技術者との最後の記念写真

はじめに

1
予算を確保しプレートを設置

2
トイレ衛生改善

3
手洗い啓発

はじめに

この度、この第9号をもって活動報告を終了させていただくことになりました。多くの活動を行い、充実した日々を送っていたため、最後の報告は簡単なものとなりましたことをお詫び申し上げます。これまで私の活動報告をご覧いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。今後、機会がございましたら、より詳細な活動報告をさせていただければと思っております。

1. 予算を確保しプレートを設置

予算の確保には半年以上かかりましたが、ようやくプレートの設置が実現しました。ンゴマ・カヨンザ・ルワマガナ郡内のハンドポンプ井戸36基にプレートを設置しました。設置後は、多くの住民から、故障前の小さな問題から故障報告まで幅広く連絡をいただけるようになっていきます。修理までのスピードは住民による修理料金の集金速度に依存しますが、故障翌日または1週間以内に修理を完了できた井戸もあります。故障後に集金が始まるまでの時間が大幅に短縮されたため、プレート設置前と比較して、ハンドポンプの故障期間を短縮できていると考えられます。この故障期間の短縮により、住民が汚水を使用する期間が短くなり、下痢を発症するリスクの低下に繋がっています。



※ プレート設置



※ プレート設置後

2. トイレ衛生改善

ルワンダの学校トイレ（対象は3～5歳児）では、トイレ内に排泄物が放置される問題が散見されました。ルワンダの学校トイレはいわゆるぼっとんトイレで、多くの生徒が穴に排泄をしないため、排泄物がトイレ内に残り、大量のハエが発生していました。この問題に対処するため、足跡・ポスターの設置を通じて、生徒に適切な排泄方法を促す取り組みを行いました。その結果、トイレ内に放置される排泄物の量を一定量減少させることができました。しかし、足跡とポスターの設置のみでは期待していた効果が得られなかったため、生徒への直接指導も実施しました。この取り組みにより、排泄物の量を改善前と比較して約8～9割削減することができました。



※ ペンキで足跡を作成



※ 排泄方法の指導



※ 足跡・ポスター設置後
（学校1）



※ 足跡・ポスター設置後
（学校2）

3. 手洗い啓発

ルワンダ人の手洗い意識に関する調査のため、ルワンダのアリメンテーション（軽食を提供する商店）や配属先のセクターオフィスに設置された手洗い容器の水量を朝と夕に計測したところ、水量にほとんど変化がないことがわかりました。つまり、手洗いの実施がほとんどされていないことが判明しました。しかし、この問題に気づいたのは帰国まで約4ヶ月の時期だったため、帰国後も手洗い意識を向上できるように、ポスター掲示による啓発を実施することにしました。

ポスターに掲載するルワンダ人に効果的な啓発メッセージを特定するため、住民100人にアンケートを実施しました。ポスター作成後、ポスターを設置し、2ヶ月間掲示しその効果を測定した結果、初月には改善が見られましたが、2ヶ月目には効果が減少しました。この結果から、ルワンダにおいてポスター掲示による手洗い啓発は、一時的な効果しか得られないことが考察されました。



※ ポスター設置
（アリメンテーション）



※ ポスター設置
（セクターオフィス）